

図書館だより

No.78 July, 2011



目 次

巻頭エッセイ 筑後の敦盛	一般文科	松尾 一	1
読書のすすめ 寺田寅彦著「寺田寅彦随筆集」	制御情報工学科	松本 光広	2
渡辺浩弐著「1999年のゲーム・キッズ」	一般文科	藤木 篤	3
私の一冊	各学科学生6名		4
リレー連載「古典への誘い」 郷里・佐世保出身の作家たち	生物応用化学科	津田 祐輔	6
平成22年度ブックハンティング（冬季）の報告			7
平成22年度後期図書館利用状況			8
Information 編集後記			9

巻頭エッセイ

筑後の敦盛



一般文科 松尾 一

人間五十年化天の内をくらぶれば、夢幻のごとくなり、一度生を受け滅せぬ者のあるべきか…
(「敦盛」『幸若舞(3)』 東洋文庫426 P90)

敦盛の一節である。幸若舞は曲舞とも呼ばれ、名前の由緒は室町時代に、幼名幸若丸(桃井直詮)が創始した芸で、十六世紀に隆盛し十八世紀には廃れ、江戸中期には稀観の伝統芸能化していた。

本題に入ろう。敦盛といえば、戦国の雄である織田信長が好み舞う、戦国を舞台の映画やTV必須の光景である。登場の場は、1560年、駿河の今川義元を尾張桶狭間で敗死させる戦いの出陣の場面。1582年、安芸の毛利氏征討の途中、京都の本能寺で、明智光秀の謀反に敗死する場面。タネ本は、家臣太田牛一が、1610年に著した信長の一代記『信長公記』で、緒戦の戦況が伝わる中、信長は、負け戦の情報の最中、家臣の喧騒を他所に、敦盛を一節舞った。終わるや信長は出陣を告げ、湯漬けを立食い、甲冑に身を固めるといふ、敵は桶狭間にありの場面である。本能寺では、明智の謀反に武運も滅尽と覚悟の信長は、腰元衆が落ちた後に御殿に火をかけ、敵に首級(頸)を渡すことを避けるため、奥の間に一人引き籠り切腹した、という、本能寺の変、信長の切腹の場面で、目撃者なしの設定。敦盛は、天下統一を目前に倒れた信長の人物像を描く格好の寓話であり、近侍の手になる『信長公記』は、信頼性が高い史書である。従って、作話が多い映画やTVドラマの戦国作品のなかで、珍しく敦盛の2場面は、史実に沿った光景なはずである。実はである。

と冗長な枕を書いたが、意図は、こうである。一つには、敦盛は、確かに桶狭間には出てくるが、本能寺は全く触れていない。死を前の信長が敦盛を舞ったか。次に、何よりの疑問は、今日に視聴する敦盛は、忠実な幸若舞の姿であろうか、である。

答えを急ぐ。『信長公記』は、日常に幸若舞を愛好したと伝えるが、敦盛の一節の外は舞ないと伝えるそして、日常に口ずさみながら座興に舞ったとする。とすれば、本能寺で「人間五十年…」と考えても不都合はない。

『信長公記』は、頸を守るために、火をかけ一人で切腹、とするから後は想像の域となる。ところが、映像での幸若舞の所作は疑問が大きい。理由は十八世紀に幸若舞は衰微し、鑑賞した人は数少ない。また、伝来の筑後国大江の「大冠流」の演目八番にもなく、敦盛の鑑賞は不可能である。

印象的にいえば映画・TVの幸若舞は動きが激しすぎる。興ざめの中身は、信長が日常に鼻唄交じりの敦盛の一節が劇的描写に余る。実際に、大冠流幸若舞の所作はユッタリして観える。

話を進める。敦盛は、幸若舞より以前から『源平盛衰記』・『平家物語』…、などの琵琶法師の口語り(口頭伝承文芸)を通じ、皆知っている国民的な「お話し」であった。皆知る敦盛の「お話し」を、『信長公記』は、敦盛に感興する信長像の大切な寓話として描いている。信長27歳の桶狭間、49歳本能寺の敦盛である。映像も『信長公記』も、敦盛の「人間五十年…」を切り取り使用する。

さて、敦盛は三つの「人間五十年」を埋め込む。①16歳で一の谷(1185年)で落命した平敦盛、②源氏の情けで軀のみと化した敦盛に直面する経盛(清盛異母弟)、③敦盛の頸を高野山へ供養し、菩提と自らの後世願に出家する熊谷直実(蓮生房)、である。

詰めを急ぐ。「信長公記」は、死と立ち向かう乱世の世界で、人生は太く短くに付し、武士の情けを重んずるのではなく、情緒を否定する人物像に信長を描く。桶狭間で戦勝祈願、本能寺では辞世遺言、としの敦盛の寓話の展開である。

2009年1月20日、みやま市(瀬高町大江)重要無形民俗文化財の「大冠流幸若舞」は、敦盛を復元した。多くを語る必要はない。年に一度(1月20日)は敦盛を観劇できる。今年から数年は週末である。あの吉川英治、井上靖も司馬遼太郎も観たことがない敦盛の「人間五十年…」をである。紙幅も尽きた。

立烏帽子 袴長引き 小刀
素襖の袖ぞ 張って舞ひつつ (北原白秋)

特集 読書のすすめ

寺田寅彦著 「寺田寅彦随筆集」



制御情報工学科 松本 光広

「天災は忘れたころにやってくる」、地震や台風などの天災というものは、その恐ろしさを忘れたところに突然やってくるものである。そのために常日頃から天災に備えて準備しておくことが大切である。

3月11日に東北地方太平洋沖にて巨大地震が発生して、それに伴って発生した津波およびその後の余震により、多くの方々が亡くなりました。心からご冥福をお祈りし、被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。

上記の「天災は忘れたころにやってくる」という名言を残したのは、戦前の日本の物理学者として有名な寺田寅彦です。寺田の出身は、四国の高知です。高知市の高知城の裏手に、かつて寺田が住んでいた住居が寺田寅彦記念館として残っています。門下生には、雪の結晶の研究で有名な中谷宇吉郎や、地球物理学者の坪井忠二などがいます。

寺田の物理学者としての研究業績は数多くあります。「潮汐の副振動の観測」など、地球という大きなスケールを対象とした研究があります。一方で「X線の結晶透過（ラウエ斑点の実験、結晶解析分野としては非常に初期の研究のひとつ）」において、物質という小さなスケールを対象として研究しています。X線の結晶透過は、その業績により帝国学士院恩賜賞を受賞しています。これらの研究は、物理学の広い範囲に及びます。また、純粋な物理学とは一見考えられない、「金平糖の角の研究」や「ひび割れの研究」などがあります。これらは統計力学的な「形の物理学」分野での先駆的な研究でした。このような生活に密着した身近な物理現象の研究は「寺田物理学」の名を得ています。

寺田は物理学者としての顔だけではなく、随筆家や俳人としての顔も持ち合わせています。自然科学者でありながら文学など自然科学以外の事柄にも造詣が深く、科学と文学を調和させた随筆を多く残しています。これらの内容は表題の寺田寅彦随筆集にも多く掲載されています。また、寺田は夏目漱石の弟子でもあり、「吾輩は猫である」の水島寒月や「三四郎」の野々宮宗八のモデルとも言われています。

地球から物質に及ぶマクロからミクロの視点で物理学

の研究を行い、身近な金平糖やひび割れについてその現象に興味関心を持ち、さらに科学と文学を調和させて新たな学問領域の融合を試みた寺田寅彦の世界を、寺田寅彦随筆集を手にとって味わってみてはいかがでしょうか。授業や教科書で学ぶことだけが物理ではなく、より広い感覚で物理を感じ取ることができるようになり、目の前が開けると思います。



寺田寅彦随筆集第一巻

特集 読書のすすめ

渡辺浩武著「1999年のゲーム・キッズ」



一般文科 藤木 篤

「技術とはなんだろうか」---私の専門分野である工学倫理や技術の哲学という領域における、最も単純かつ根本的な問いです。有史以来、哲学者や倫理学者のみならず、多くの人間がなんとか自分なりの回答を与えようと、並々ならぬ情熱をもってこの困難な問いに取り組んできました。こうした先哲の思索の跡は、現在でも多くの資料・書籍に見出すことができます。

しかし、技術という語が職人の手仕事のみを指していた時代とは異なり、現代では技術は科学と結びつき、社会制度の中に組み込まれることによって、巨大化しました。したがって、かつての技術論をそのまま現代に当てはめることは難しいと言わざるをえません。また近年の科学技術の進歩の速度にはすさまじいものがあるため、思想家達の努力も空しく、倫理面の課題や規制の議論はどうしても後追いのものになってしまいがちです。そういう意味で、科学技術の進歩とそれに伴う諸問題については、私たち自身ひとりひとりが考えなければいけないところに来ているのかもしれない。

では、科学技術の進歩は、社会に、そしてそこで暮らす私たちにどのような影響を及ぼすのでしょうか。この問いを考える上で、『1999年のゲーム・キッズ』は示唆に富む思考実験を皆さんに提供してくれるでしょう。本書は星新一風のショート・ショートですが、ひとつ決定的に違うのは、出版当時の1997年頃に世に出現し始めた、最新技術を題材にしている点です。あとがきに従えば、本書は「現在のゲーム世代に向けて、彼らがやがて大人になる頃に体験することになる現実のシミュレーションとして」書かれています。

本書で扱われている技術の中には、2011年現在、夢物語として表舞台からは消えてしまったものもありますが、今でも最新技術の一端を担っているものもあります。クローン技術や人工冬眠をはじめとした生命に関わる技術はもちろん、人工知能やロボット技術などについても、種々の課題を解決するために日々研究が進められています。しかし真に注目に値するのは、すでに最新技術ではなくなった、すなわちごく身近な存在として私たちの身の回りに溶け込んでしまった技術があるという点です。

たとえば「チャンネル戦争」と題された話では、放送のデジタル化が進むにつれて、テレビが単なる映像受信機ではなく、ありとあらゆるメディアのアウトプット先として姿を変えた世界を描いています。地デジ化やインターネットとの接続、他のデジタルAV機器との連携を目標とするDLNA (Digital Living Network Alliance) と呼ばれる仕様により、話の中で描かれていた状態が実現しつつあります。また「地図にない国」で扱われているGPSの技術はカーナビなどを通じて、もはや最新技術というには忍びないほど、私たちの生活に浸透しています(余談ですが2005年製の私の携帯電話ですらGPS機能がついています)。さらに、本書で「デジタル・ノベル」や「デスクトップ・ペーパー」として描かれている技術は、多くのWebページや電子書籍、そしてそれらを読むための各種端末(米Apple社のiPadの大ヒットは記憶に新しいところですが)によって現実のものとなっています。

本書には、技術の進歩によってなにが可能になり、それらが私たちの生活にどのような影響を及ぼすのかという予想が巧みに、されど娯楽性を失うことなく描かれています。もちろん全ての予想が当たっているわけではありませんが、反対に著者の先見性の高さにはハッとさせられる箇所も散見されます。技術が実用化され、社会に組み込まれてからあわてふためくのではなく、出現しつつある先端技術の情報をもとに、将来を予想する練習を事前に行っておくことは、決して無駄にはならないでしょう。

本書は発行年度が古いことも関係して、入手しにくいかもしれませんが、幸いいくつかの続編があります。これらの本をきっかけに、科学技術と私たちの生活との関係について、ぜひ一度考えてみてください。



私の一冊



小川 洋子 著

猫を抱いて象と泳ぐ

文藝春秋

その赤ん坊は唇がくっついたまま、産声もあげず生まれてきた。後年、伝説のチェスプレイヤー・リトルアリョーヒンと呼ばれる彼にとってその誕生の瞬間は人生の象徴な出来事であった。言葉も無く、触れ合うこともなくただ静かに、盤下から人形を介してチェスを指す、アリョーヒンの密やかな物語。静かで広大な64マスの海を詩のように美しい言葉で綴った名著です。

(機械工学科5年 堀川 祥基)

【図書館所蔵情報】 913|O|103



小池 龍之介 著

偽善入門 -浮世をサバイバルする善悪マニュアル- サンガ

「偽善」というと、皆さん良くないイメージを持たれると思います。例えば、悩んでいる友人に、慰めの言葉をかけたところ、逆に「余計なお世話か」と言われたりし、「私って偽善者なのかな?」と落ち込むことは、誰しも経験があることと思います。

この本の著者は、「偽善」と「偽善」という2つの心のあり方と違いについて述べています。そして、後者の心によって、少しずつ善の心を育てることができると思っています。

「偽善」の代表的なものとして、「アウトロー気取り」、「斜に構える」などのキーワードを使って、自分のもつ「特別感」が、いかに厄介者で、それが、自分にとっても、他人にとっても迷惑甚だしいことを生み出す原因となることを、分かり易く説明しています。

また、完全な「善」の心で行動を起こすことは到底無理なので、「偽善」という不完全ながらも、良い結果を得られるための心の持ち方について、解説しています。(電気電子工学科4年 山崎 裕太)

【図書館所蔵情報】 ◇購入予定



司馬 遼太郎 著

新装版 播磨灘物語

講談社文庫

この本の主人公は、黒田孝高(通称：官兵衛)という戦国武将です。一般に官兵衛は、「天下を虎視眈々と狙っている知略の男」というイメージがあります。しかし、「播磨灘物語」において、官兵衛は「欲のうすい性格だが、天下をいじってみたいという夢を持っている男」として書かれています。私は物語を読んでいて、そんな官兵衛のことが好きになっていきました。

福岡にも関わりのある武将として、黒田孝高を好意的に書いている小説なので、昨今の歴史ブームに乗って読んでみる事をおすすめできる一冊だと思います。

(制御情報工学科3年 最所 由紀子)

【図書館所蔵情報】 ◇購入予定





私の一冊



飲茶 著

哲学的な何か、あと科学とか

二見書房

最初に言っておこう。この本は非常に好き嫌いが分かれる。「公式でこそ、この世界のすべてを説明できる。哲学なんて時間の無駄だ」、とってる君にはお勧めしない。何故ならこの本は、そんな常識というものを根本から壊してしまう危険があるからだ。

「哲学」と「科学」。まったく違うように見える二つのものが、実は非常に近い場所にあるものだという事を、この本は教えてくれる。「シュレディンガーの猫」、「哲学的ゾンビ」、「ココロ」…この本は、様々な話題が、非常に易しく、コラム形式で書かれている。さらっと読めてしまうので、空いた時間にも読んで頂ければ幸いである。

(生物応用化学科3年 遠藤 喜嗣)

【図書館所蔵情報】 ◇購入予定



伊坂 幸太郎 著

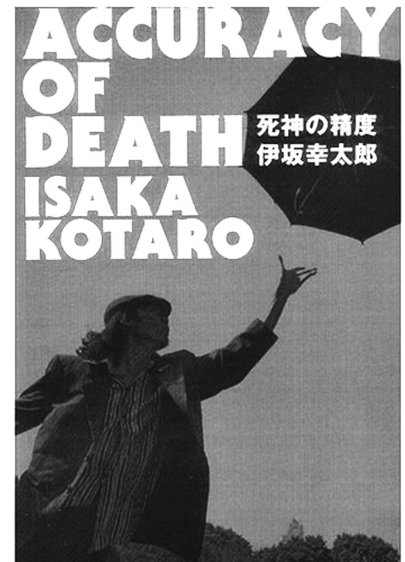
死神の精度

文春文庫

死神の仕事は、人が不慮の死を迎える7日前に現れてその人物を観察し、その死が「可」か「見送り」かを判定することである。よほどのことがない限り死神は「可」の報告をし、8日目にその死を見届けることになっている。しかし、ある人を「見送り」にしたことから、様々な人々の運命が少しずつ変わっていく。主人公が「死神」という非現実的な設定ではあるが、現実離れし過ぎない不思議な話である。死がテーマでありながら、重くも軽くもなく、読み終わると少しだけ温かい気持ちにさせられる。この本は6つの話からなる短編集だが、長編小説のような面白さも楽しめる。一つ一つの話は短いために読みやすく、あまり読書をしない人にもおすすめの作品である。

(材料工学科4年 森 彩奈)

【図書館所蔵情報】 9131112



デイビット・コーブランド/ロン・ルイス 著 大沢 章子 訳

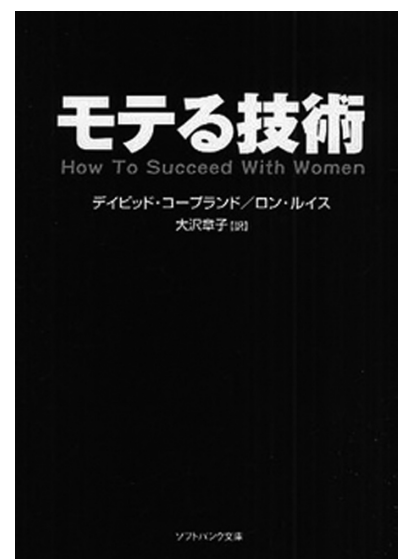
モテる技術～How To Succeed With Women～

小学館プロダクション

この図書館だよりに目を通す人が増えればと願い、今回は少し変わったタイトルの本の紹介をしようと思う。現代の日本では、人との出会いや付き合いを苦手だと感じる人が増えており、ニートや未婚状態の問題が発生している。このような人たちは自分には魅力がないし、運がないと悲観的になってしまっていることが多い。この本では、人との出会いから別れまでを恋愛に例えて、人への感謝の伝え方などを事細かに教えてくれている。これまで友達ができないと嘆いていた人、人と上手く話せないという人でも、心配はいらない。この本を読むことできっと新しい世界への扉が開かれる作品である。

(専攻科物質工学専攻1年 倉地 康平)

【図書館所蔵情報】 ◇購入予定



リレー連載「古典への誘い」

郷里・佐世保出身の作家たち



生物応用化学科 津田 祐輔

私の郷里、長崎県佐世保市の市立図書館には「郷土出身の作家」という展示コーナーがあり、3人の作家がとりあげられている。白石一郎、村上龍、佐藤正午である。3人とも昭和の時代に活躍し始めた作家であるが、平成生まれの若者から見ると昭和の時代はノスタルジーを感じさせる時代らしく、これら3人の作家の作品にも「古典」と呼んでもおかしくないものもある、と勝手に解釈し、このリレー連載に取り上げさせて戴くことにした。

白石一郎は直木賞を受賞した「海狼伝」などで知られる歴史小説作家である。ただ、私はこの方の書物を殆ど読んだことがなく、また私よりも一世代上ということもあり、あまり多くは語れない。翻って、村上龍、佐藤正午は同世代の作家で、村上龍こと村上龍之介さんは佐世保北高校の3年先輩、佐藤正午こと佐藤兼隆君は同学年であり、この2人の作家には私は特別な思い入れがある。

1971年の春、私は佐世保北高校に入学した。学生運動の立て看板が校門の壁に立てかけられ、校内が異様な緊張に包まれているのを感じた。何でも、その前年の1970年に「佐世保北高全共闘」という生徒のグループが学校をバリケード封鎖し、多くの処分者、退学者を出したとの事であった。その中心人物は村上龍、そして事の顛末は小説「69」に詳しい。

村上龍は芥川賞受賞作、「限りなく透明に近いブルー」（1976年）で、一躍、時代の寵児となった。佐世保と同じ、米軍基地の町、福生のヒッピー暮らしの青年を描いたこの小説は、賛否両論を招いたが、村上龍作品はいつも時代を見据えた問題提起をする。小説「69」は1987年に発表され、69年前後の自身の体験を描いた自伝的小説として大きな話題となった。「69」に出てくるストーリーのほぼ全ては事実だそう。無条件で面白い「小説」なのだが、村上龍が名指しで非難している教師達、従順でダメな生徒達、工業高校の番長グループなどはあまり読みたくないであろう。事実、佐世保北高に残る教師には有名作家となっても「村上は許さない！」と断言する方もいたそうで、映画「69」（妻夫木聡・主演・2004年）の撮影の際、

佐世保北高は撮影ロケ地の申し出を拒否している。この様に有名作家となっても「戦い」を続ける村上龍だが、数年前、私は佐世保のロック・バーで「69」に登場する矢崎（村上龍）のバンド、「シーラカンス」の69年当時の写真をみせてもらって考え直したことがある。そこには真面目そうな制服姿の高校生の村上さんが写っていた。

村上龍の3年後の世代、即ち佐藤正午や私の世代は、「3無主義」（無気力・無関心・無責任）と呼ばれた世代である。過激な学生運動はすでに既に下火となり、若者は「しらせ世代」となったわけである。ただ、いつの世も若者は感受性が人一倍強く、幾分ソフトになったというのが実際のところであろう。

佐藤正午は、すばる文学賞受賞作「永遠の1/2」（1983年）でデビューした。この佐世保北高3人目の作家の作風はふんわりと穏やかな語り口で日常、恋愛、そしてサスペンスさえも語るのが特徴で、あっさりとしているが印象的なエッセイも秀作が多い。

私は佐藤君とは同学年であるが、高校時代には面識がなく、言葉を交わしたのは高校を卒業して2年目の佐世保市内の雀荘か何かであった。何でも、私が高校の文集に書いた作文が気に入ったそうで、是非、文通をしたいとの事。この妙な申し出を受けて、北大文学部の佐藤君と何度か手紙を交わした。

佐藤正午は札幌で読書と読者のいない小説書きで6年間を過ごしたのち、佐世保に戻り、作家となった今も佐世保に住んでいる。ごく親しい友人とは会うそうだが同窓会には出てこない。が、心温まるメッセージを同窓会に寄稿してくれて、その一文はエッセイ集の中にも転載されている。佐藤正午作品には作中人物の名前に多くの高校同級生の名前が登場し、佐世保北高を舞台にしたと思える小説「童貞物語」（1987年）と言うのもそうだ。最近、会った同級生は、僕は「永遠の1/2」に小太りの中年男で登場するんだよねと笑った。私は、最近、書店で何気なく手にした佐藤正午の「5」と言う小説をみて唖然とした。主人公は小説家・津田となっていた。佐藤君は35年前のあの文通を覚えているのだろう。

◆◆平成22年度ブックハンティング(冬季)の報告◆◆

下の写真は、去年12月27日、紀伊国屋書店(久留米ゆめタウン2F)でのブックハンティングの様子です。ブックハンティングは例年夏季と冬季の2回行われております。参加者は、ホームルームや図書館掲示板を通して募集したり、図書委員に直接依頼したり様々です。興味を持った方は、クラスの図書委員に相談したり、参加者募集のアナウンスに注意しておいてください。今年の夏季ブックハンティングは7月25日に実施予定です。



ブックハンティングで選んだ本は、1ヶ月ほどで図書館に入ります。
現在は図書館内にブックハンティング選書コーナーを設置していますので、
今回のメンバーのハンティング成果を是非見に来てください!!
面白い本が並んでいますよ。

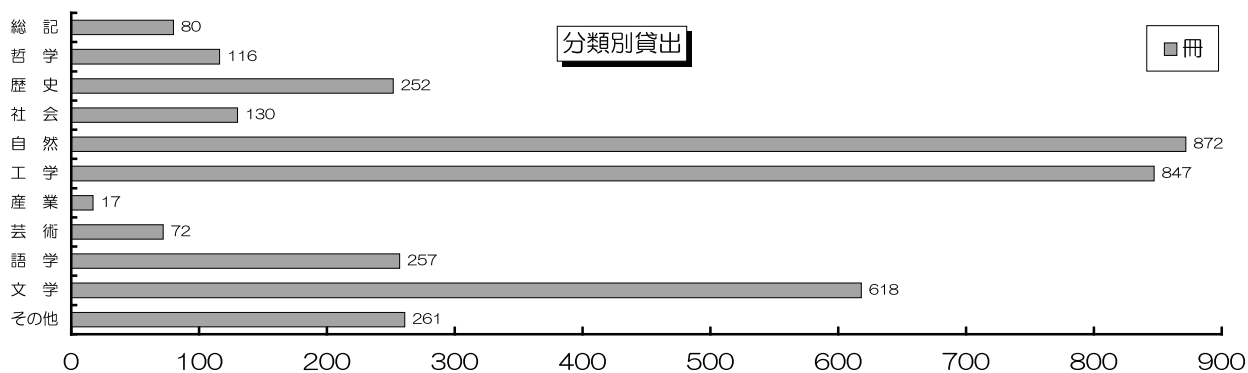
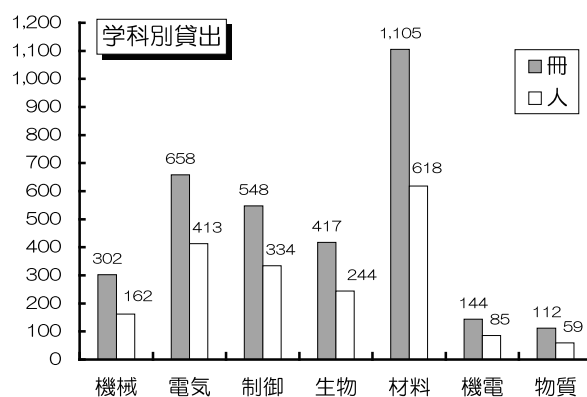
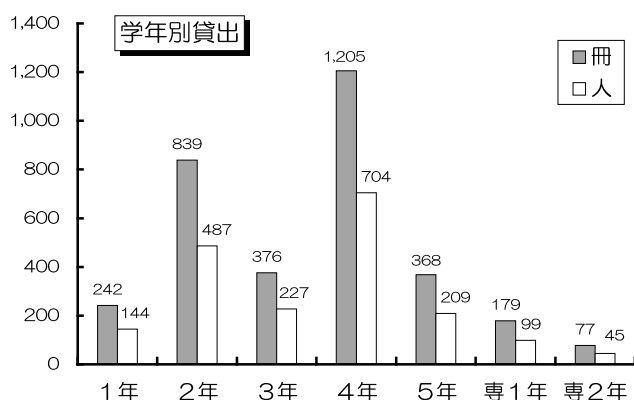


H22年度冬季ブックハンティングの写真提供者の紹介
提供者名: 匿名
コメント: 新聞文型部室に同作者の写真帖を置いています。興味のある方はどうぞ。

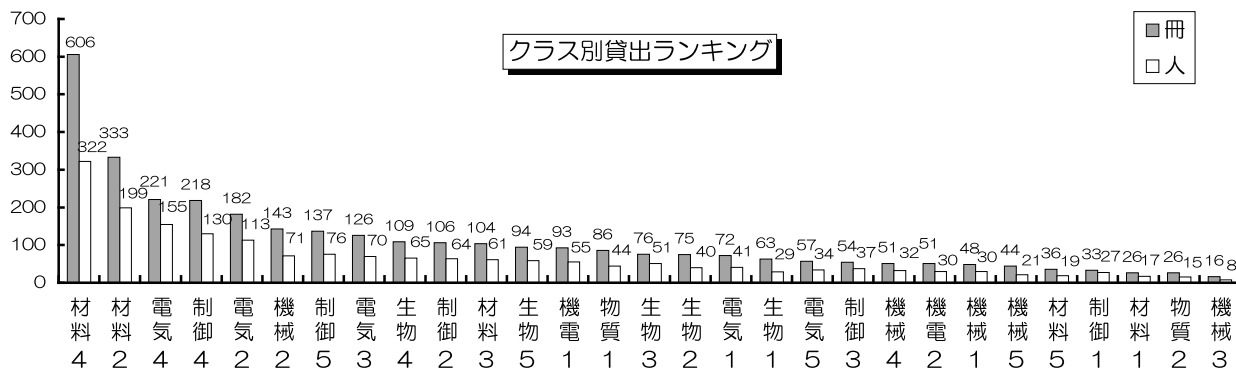
平成22年度後期 図書館利用状況

◆開館日数及び入館者数

月	開館日数	入館者数				一般利用者数 (内数)	一日平均入館者数 (四捨五入)	開館時間
		平日		土曜日	合計			
		時間内	時間外					
10	25	2,408	564	125	3,097	30	124	平日(時間内)9時~17時 平日(時間外)17時~20時 土曜日9時~17時 ※冬季及び学年末休業期間は平日(時間外)閉館、土曜日休館
11	24	2,314	979	281	3,574	30	149	
12	21	2,506	627	109	3,242	12	154	
1	22	2,566	818	153	3,537	16	161	
2	23	2,919	1,078	302	4,299	4	187	
3	24	1,655	176	73	1,904	8	79	
合計	139	14,368	4,242	1,043	19,653	100	142	



※ 分留別貸出冊数には、教職員及び一般利用者貸出冊数を含む。



Information

下記のとおりお知らせいたします。開館時間の変更及び臨時閉館にはご注意ください。



◆特別(長期)貸出について

夏季休業期間中の特別(長期)貸出を下記のとおり行います。

- ・貸出期間：7月19日(火)から8月26日(金)まで
- ・返却期日：9月5日(月)
- ・貸出冊数：5冊以内
(一般利用者及び教職員は通常貸出です。)

◆開館時間の変更及び休館日について

夏季休業期間中は、下記のとおりです。

- ・月曜日～金曜日は、9時から17時まで開館
- ・土、日曜及び8月11日(木)、12日(金)、15日(月)は休館



◆◆図書館からのお願い◆◆

図書返却日は厳守 **飲食物の持込禁止**
携帯電話は使用禁止 **騒がしい行為・会話は禁止**

《編集後記》

本年度も引き続き図書館だよりの編集を担当することとなりました制御科の中野です。さて、編集後記コーナーにおける書籍紹介も今回で3回となります。(私の中の編集後記らしいことを書かねばならないという使命感は、徐々に失われつつあります。すいません。)今回紹介するのは、恩田陸著の「夜のピクニック」と、たかのてるこ著の「ガンジス河でバタフライ」の2冊です。両方とも映画やテレビドラマになっていますので、ご存知の方も多いかもかもしれません。

1冊目の「夜のピクニック」は、夜通しで80キロを歩くだけの高校の学校行事における高校3年生たちの会話と心情変化を描写した青春小説です。ファンタジーやサスペンスと違い劇的な展開はなく全体的に質素な舞台設定なのですが、読んだ後には清々しい気持ちになれます。

2冊目の「ガンジス河でバタフライ」は、関西OLがマレーシアやインドを勢いに任せて無計画に旅した様子を書いた旅エッセイです。旅人である作者と旅先で出会った人

との生きるエネルギーに満ち溢れた爽快痛快な作品です。ただし、この作品にあるような無計画な危険地への旅行は容認できません。くれぐれも真似しないように!!

さて、3月11日から続く震災と原発事故の悲惨なニュースが否応無く耳に入ってきているかと思います。犠牲者のご冥福をお祈りいたします。この鬱屈とさせらるニュースは、私に日々の平穏や充実について考えるきっかけとなっているようです。書籍紹介に選んだ作品が青春小説と旅エッセイなのはそのせいなのかもしれないですね。私は2冊を読んで、平穏の大切さと、充実のためにチャレンジする気持ちを改めて感じています。読みたい本が見つからないのであれば、是非読んでみてください。

今年は、猛烈な夏となりそうです。自宅でエアコンを動かす前に、節電のためにも図書室に本を読みに来てください。平穏を感じ、充実の夏を(図書館で)過ごすことを期待します。

(図書主幹 中野 明)

発行日：平成23年7月11日

発行・編集：久留米工業高等専門学校図書館 Tel：0942-35-9306 Fax：0942-35-9206
〒830-8555 久留米市小森野一丁目1番1号 E-mail：L-staff.SAD@ON.kurume-nct.ac.jp